

朝朝の鉢に水やる楽しさよ近近と立つ淡き虹のいろ

(R)

大石田の春・・・

梅、水仙、福寿草、こぶし、スマシレ…、雪が消えると大石田は一斉に花の時期です。大正十二年初めて大石田に降り立った洋画家の金山平三先生(1883-1964)は、梨の花咲く春景色や最上川を数多く描きました。

大石田町の花(昭和六十年制定)は“サクラ”です。昭和三十九年町指定文化財天然記念物に登録された「愛宕山のシダレザクラ」は、樹齢四百年、高さ十九メートルの美しい姿です。種まきの時期に開花することから、「種蒔桜」と呼ばれ大石田では一番の桜の巨木です。足元にある大伽羅もまた大切な文化財で、よく見ると小さな花が咲いています。

桜花台、田沢沼周辺の桜、下河原のさくらロード、温泉館裏の最上川桜づつみ、四日町く豊田線や井出の桜並木、中学校下のグラウンド場の桜は見ごたえがあります。北小学校には千年桜(エドヒガンザクラ)が成長しています。黒滝から次年子に行く大林(小平)林道では、大山桜やピンのクノ山桜が雪の上で咲いています。

以前大石田町で一番咲きのサクラは愛宕町の坂の途中にある桜が有名でした。今は旧市村医院の所のサクラや商工会前のサクラが早く咲くようです。他にも遅く咲く黄緑の花の御衣黄、ウツクサ白く長い房にさくウワミズザクラ、田沢のイヌザクラも楽しみたいものです。

・・・

葎始めて生ず(あしはじめてしょうず)

4月20日～4月24日頃

昔々は虫・動物の行動、あるいは植物の生育などでその年の天候や積雪量を予測していた。次年子ではコブシの花が上向きなら少雨。下向きなら大雨あり。横向きなら風が強い。目下、裏山はコブシが満開。花は上を向いて咲いている。(海藤忠男)

霜止んで苗出ず(しもやんでなえいず)

4月25日～4月29日頃

雪におおわれていた生活から、見る見るうちに桜の季節です。農作業がいよいよ始まりました。稲の種をまき、芽だし機に2、3日入れ、ハウスへと移動です。「苗がよく育つように。」と願います。田植えが始まるまで、いくつもの行程を経て米作に精を出します。毎年気合の入る季節です。(き)

牡丹華さく(ぼたんはなさく)

4月30日～5月4日頃

大石田町の北空、八森山(最上町)に「小国駒」の雪形(ゆきがた)が見える。その山に残る雪の姿は白馬の形で頂上に位置し左を向く。規模としてはかなり大きい。昔はそれを目安に種籾をまいていた。町内から見える雪形はないと思っていたが、はからずも私の住む里地区で聞きとめた。(海藤忠男)



2015.4.26 丹生川大橋から大石田をのぞむ

読書会だより ⑱

大石田の穀雨のころ

七十二候より

雨は冷たさを感じず、優しい雨になっています。柔らかな畑の土の上にツバメが飛び始めました。スイカ畑は幾筋ものトンネルハウスの畝が見事です。大石田で栽培されるスイカはシャリシャリと甘く、夏の収穫が待ち遠しくなります。霜注意報が出るとドキドキします。

大石田町立図書館